



環境活動レポート

期間：平成30年4月～平成31年3月



— 目 次 —

- ① 環境方針
- ② 沿革
- ③ 事業概要
- ④ 環境への取組
- ⑤ 環境管理システム
- ⑥ 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日
- ⑦ 環境目標（単年度総量）
- ⑧ 環境目標（中長期総量）
- ⑨ 環境目標（原単位目標）
- ⑩ 環境活動計画
- ⑪ 環境目標の実績
- ⑫ 取組結果と評価
- ⑬ 取組の状況
- ⑭ 次年度の環境活動計画
- ⑮ 環境関連法規
- ⑯ 全体評価と見直し
- ⑰ 全体評価と見直し



「人々の生活を支える電気を守り 安全で豊かに暮らせる社会を実現する」



はじめに

当社は、電気工事を通して社会や人々を支え、安全で豊かに暮らせる社会を実現することを経営理念に掲げ、企業活動や社会貢献活動に努めてきました。

電気と環境問題は切り離せない問題であり、今後も永続的に様々な環境活動に取り組んでいくことは、電気に関わる当社の責務であると考えています。

—環境方針—

『基本理念』

有限会社藤中電設は、電気工事及び機械器具設置工事の施工を通じて、地球環境を守ると共に美しい自然環境を次世代に引き継ぐため、全社員一丸となって環境保全活動に取り組む企業を目指します。

『基本方針』

1. 環境関連法及び条例等を遵守します。
2. 建設工事に関わる各段階において、環境負荷の少ない事業活動を行います。
3. 社用車両の燃料使用抑制に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
4. 省エネルギー・節電に努め、二酸化炭素排出量を削減していきます。
5. 建設工事及び事務所における廃棄物排出量の削減及びリサイクルを推進します。
6. 建設工事及び事務所における節水活動により、水使用量を削減します。
7. 環境に配慮した物品を調達する「グリーン購入」を推進します。
8. 環境に配慮した工事を推進します。
9. 道路清掃及び環境美化活動に積極的に取り組みます。
10. 環境活動レポートを毎年作成し、外部公表します。
11. これらの環境方針は社員全員に周知徹底し、一丸となって取り組みます。

制定日 平成29年5月31日
有限会社 藤中電設
代表取締役 藤中昭宏

一 沿革 一

□概要

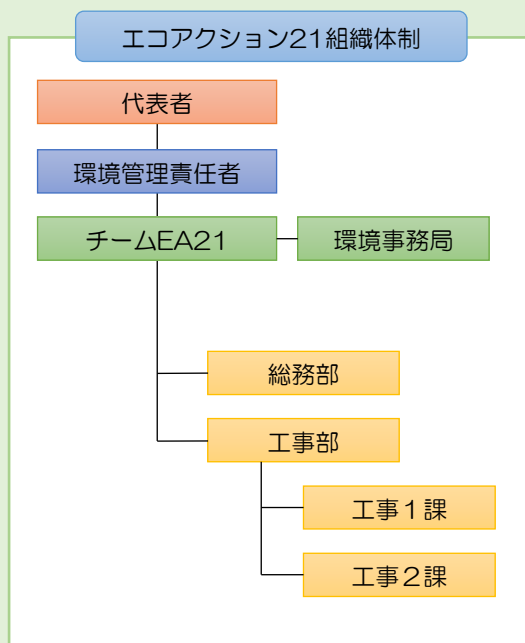
社名：有限会社 藤中電設
 代表者：代表取締役 藤中昭宏
 所在地：高知県高知市神田2231-5
 ：高知県高知市長浜1608-3（倉庫）
 連絡先：088-831-0640
 ：088-831-0661（FAX）
 ：info@f-dn.co.jp
 設立：平成7年4月14日
 資本金：300万円

□事業規模

完成工事高	166百万円 (平成30年4月～31年3月)
従業員数	14名(平成30年4月現在)
事務所延べ床面積	29.7㎡
倉庫延べ床面積	69.75㎡

□建設業許可

高知県知事許可（般-27）第7413号
 ・電気工事業
 ・機械器具設置工事業



□環境管理責任者及び担当者

責任者：代表取締役 藤中昭宏
 連絡先：090-2789-5004
 URL：<http://www.f-dn.co.jp>

私たちの歩み

1995年 4月	有限会社 藤中電設設立
1995年 6月	電気工事業 許可取得
1996年 8月	機械器具設置工事業 許可取得
2006年 10月	現在地へ社屋を移転（神田事務所）
2017年 7月	高知市長浜に新倉庫完成
2017年 9月	藤中昭宏 代表取締役に就任
	現在に至る

一 事業概要 一

□電気の未来を作る

当社は、生活を支えるライフラインに深く関わり各地の発電所のメンテナンスや設備工事を主な事業として展開しています。また、主要事業と並行して会社周辺の環境美化活動や清掃活動にも積極的に参加し、「誰もが安全で豊かに暮らせる社会の実現」のために環境問題に取り組んでいます。

電気を **作る**

私たちは、電気を作ることに深く関わり
電気の未来を作る企業であることを目指します。



私たちは、電気を守ることに責任を持ち
ライフラインを支える企業であり続けます。

電気を **守る**

電気を **届ける**

私たちは、家庭や職場に電気を安全に届け
地域とともに成長し続ける企業を目指します。



私たちは、事故や災害から生活を守り
地球環境を大切にする企業を目指します。

生活を **守る**

安全を **誓う**

私たちは、何よりも安全を最優先にし
無事故無災害を追求し続けます。



— 環境への取組 —



□会社周辺の清掃活動

定期的な会社周辺の道路や側溝の清掃を行い地域の美化に努めています。



□環境美化活動への参加

所属団体などの環境活動へ積極的に参加し、環境保全や美化活動に努めています。



□社内勉強会の推進

環境問題に対する意識を高めるため、定期的に社内勉強会を開催しています。



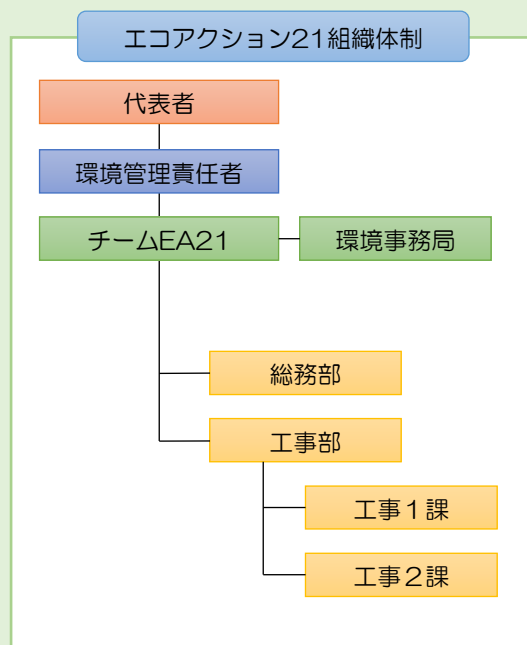
□環境博への協賛

取り組みのひとつとして、2019年高知環境博に協賛させていただきました。

一 環境管理システム 一

□環境管理組織体制

代 表 者	藤中 昭宏
環境管理責任者	藤中 昭宏
チー ムEA21	松本 雅志
	又川 紘輔
	坂田 友和
	岡田 裕亮
	森尾 之孝
環 境 事 務 局	藤中 由香
総 務 部	藤中 恭子
工 事 部	梶原 将美



環境管理システム 役割・責任・権限表

代表者	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営に関する統括責任 ○環境経営システム実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ○環境管理責任者を任命 ○環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ○環境目標、環境活動計画を承認 ○代表者による全体評価と見直し実施 ○環境活動レポートの承認
環境管理責任者 (代表者兼任)	<ul style="list-style-type: none"> ○環境経営システムの構築、実施、管理 ○環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ○環境目標、環境活動計画を承認 ○環境活動の取組結果を代表者へ報告 ○環境活動レポートの確認
チームEA21	<ul style="list-style-type: none"> ○環境管理責任者の補佐 ○各工事や業務における環境活動の実施、指導 ○環境問題に関する勉強会の実施
環境事務局	<ul style="list-style-type: none"> ○環境管理責任者の補佐 ○環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ○環境目標、環境活動計画案の作成 ○環境活動の実績集計 ○環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ○環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ○環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ○環境活動レポートの作成、公開
部門長	<ul style="list-style-type: none"> ○自部門における環境方針の周知、従業員への環境教育訓練実施 ○自部門に関する環境活動計画の実施、達成状況報告 ○自部門に関する緊急事態訓練の実施 ○自部門の問題点の発見、是正、予防措置の実施
従業員	<ul style="list-style-type: none"> ○環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚 ○決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

一 対象範囲及び期間 一

□対象範囲（認証・登録範囲）

有限会社 藤中電設（全社・全組織・全活動・全従業員）

□対象事業所

本 社 ： 高知県高知市神田2231-5

倉 庫 ： 高知県高知市長浜1608-3

□事業活動

建設業（電気工事業、機械器具設置工事業）

□レポート対象期間

平成30年4月～平成31年3月

□レポート発行日

2019年5月7日

次回発行予定 2020年5月

□レポート作成者

環境管理責任者 藤中昭宏



一 環境目標 一

[期間] 平成30年4月～平成31年3月

[総量目標] ※単年度目標

項目	単位	平成29年度 実績 基準年 H29.4～H30.3	平成30年度 目標 -2% H30.4～H31.3	
燃料使用量	(ガソリン)	L	4,790	4,694
	(軽油)	L	7,353	7,205
	(灯油)	L		
電力使用量	kWh	11,434	11,205	
CO2排出量	Kg-CO2	37,525	36,774	
用水使用量	m3	151	147	
一般廃棄物排出量	kg	256	250	
産業廃棄物排出量	t	5.75	5.63	
産業廃棄物再資源化率	%	100	100	
グリーン購入量	%	100	100	
社会貢献活動	回	2	3	
環境負荷の少ない工事件数	%	100	100	

[備考]

※1.電力のCO2排出量については、電気事業者別のCO2排出係数（平成27年度実績）

（平成28年度12月27日公表）の四国電力の実排出係数0.651（kg-CO2/kWh）を使用した。

※2.グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合（%）

※3.環境負荷の少ない工事件数

- 作業時の騒音及び粉塵対策
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- リサイクル材、県産品、間伐材などの使用
- 工事開始前の環境パトロール及び点検協議

一 環境目標 一

[期間] 平成31年4月～令和5年3月

[総量目標] ※中長期目標

項目	単位	平成30年度 実績 基準年 H30.4～H31.3	平成31年度 目標 -2% H31.4～R2.3	2020年度 目標 -2% R2.4～R3.3	2021年度 目標 -2% R3.4～R4.3	2022年度 目標 -2% R4.4～R5.3	
燃料使用量	(ガソリン)	L	4,995	4,895	4,797	4,701	4,607
	(軽油)	L	9,428	9,239	9,055	8,874	8,696
	(灯油)	L					
電力使用量	kWh	9,130	8,947	8,768	8,593	8,421	
CO2排出量	Kg- CO2	41,856	41,019	40,199	39,395	38,607	
用水使用量	m3	152	149	146	143	140	
一般廃棄物産出量	kg	244	239	234	229	224	
産業廃棄物排出量	t	6.67	6.54	6.41	6.28	6.15	
産業廃棄物再資源化率	%	100	100	100	100	100	
グリーン購入量	%	100	100	100	100	100	
社会貢献活動	回	3	4	4	5	5	
環境負荷の少ない工事件数	%	100	100	100	100	100	

[備考]

※1.電力のCO2排出量については、電気事業者別のCO2排出係数（平成27年度実績）
（平成28年度12月27日公表）の四国電力の実排出係数0.651（kg-CO2/kWh）を使用した。

※2.グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合（%）

※3.環境負荷の少ない工事件数

- 作業時の騒音及び粉塵対策
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- リサイクル材、県産品、間伐材などの使用
- 工事開始前の環境パトロール及び点検協議

— 環境目標 —

[期間] 平成31年4月～令和5年3月

[原単位目標] ※中長期目標

項目	単位	平成30年度 実績 基準年 H30.4～H31.3	平成31年度 目標 -2% H31.4～R2.3	2020年度 目標 -2% R2.4～R3.3	2021年度 目標 -2% R3.4～R4.3	2022年度 目標 -2% R4.4～R5.3
燃料使用量	L /百万円	86.89	85.15	83.45	81.78	80.14
電力使用量	kWh /百万円	55.00	53.90	52.82	51.76	50.72
CO ₂ 排出量	Kg-CO ₂ /百万円	252.14	247.10	242.16	237.32	232.57
用水使用量	m ³ /百万円	0.92	0.90	0.88	0.86	0.84

※平成30年度売上高 166百万円

[備考]

※1.電力のCO₂排出量については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成27年度実績）
（平成28年度12月27日公表）の四国電力の実排出係数0.651（kg-CO₂/kWh）を使用した。



— 環境活動計画 —

期間:平成30年4月～平成31年3月

項 目		活 動 内 容	担 当 者	期 限
CO2排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急ブレーキをしない	全社員	平成31年3月
		不要な荷物を積まない		
		不要な車両を使用しない		
		タイヤの空気圧の確認		
		適切なメンテナンスの実施		
	電力使用量削減	エアコンの温度設定 (冷房28℃/暖房20℃)	全社員	平成31年3月
事務所外出時及び昼休みの照明オフ				
未使用のパソコンの電源オフ				
用水使用量削減 (排水量削減)	手洗い及び水使用時に出しっぱなしにしない	全社員	平成31年3月	
	蛇口に節水札をつける	事務局		
廃棄物削減	一般廃棄物	コピー用紙の裏側を再使用する	全社員	平成31年3月
		弁当トレイは各自で持ち帰る	全社員	
		ゴミ分別の徹底	全社員	
	産業廃棄物	マニフェスト発行による適正処理実施	全社員	平成31年3月
グリーン購入	グリーン購入法適合商品を優先して購入	全社員	平成31年3月	
	コピー用紙は再生紙を購入する			
	事務用品は詰替えてできる商品を購入			
環境負荷の少ない工事実績	作業時の騒音及び粉塵対策	全社員	平成31年3月	
	低騒音、排出ガス対策型重機の使用			
	リサイクル材、県産品、間伐材などの使用			
	工事開始前の環境パトロール及び点検協議			
社会貢献活動	各協会ボランティア活動への参加	全社員	平成31年3月	
	会社敷地内への花いっぱい活動			
	会社周辺歩道の清掃			

— 環境目標の実績 —

[本年度の実績]

項目	単位	平成29年度 実績 基準年 H29.4~H30.3	平成30年度 目標 -2% H30.4~H31.3	平成30年度 実績 H30.4~H31.3	達成率 %	評価	
燃料使用量	(ガソリン)	L	4,790	4,694	4,995	94%	△
	(軽油)	L	7,353	7,205	9,428	76%	×
	(灯油)	L					
電力使用量	kWh	11,434	11,205	9,130	123%	○	
CO2排出量	Kg- CO2	37,525	36,774	41,856	88%	×	
用水使用量	m3	151	147	152	97%	△	
一般廃棄物産出量	kg	256	250	244	102%	○	
産業廃棄物排出量	t	5.75	5.63	6.67	84%	×	
産業廃棄物再資源化率	%	100	100	100	100%	○	
グリーン購入量	%	100	100	100	100%	○	
社会貢献活動	回	2	3	3	100%	○	
環境負荷の少ない工事件数	%	100	100	100	100%	○	

[備考]

※1.電力のCO₂排出量については、電気事業者別のCO₂排出係数（平成27年度実績）
（平成28年度12月27日公表）の四国電力の実排出係数0.651（kg-CO₂/kWh）を使用した。

※2.グリーン購入量は、製品購入金額全体に対する環境商品の購入金額割合（%）

※3.環境負荷の少ない工事件数

- 作業時の騒音及び粉塵対策
- 低騒音、排出ガス対策型重機の使用
- リサイクル材、県産品、間伐材などの使用
- 工事開始前の環境パトロール及び点検協議

達成率(%) : 目標 ÷ 実績 × 100

[評価]

- 達成 100%以上
- △ 不十分 99%~90%
- × 未達成 90%以下

[環境目標未達成理由]

遠方の工事受注量が去年より大幅増となり、燃料使用量が増加しCO₂排出量が目標達成できなかった。工事受注量の増加、工事に関わる産業廃棄物排出量が目標達成できなかったが、再資源化率では100%達成できている。今後も適切に分別処理し、削減に取り組む。

一 取組結果と評価 一

期間:平成30年4月～平成31年3月

項 目		活 動 内 容	評 価	取組結果・見直し
CO2排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急ブレーキをしない	○	実行できた 今後も継続する 車両老朽化等もあるため 入念に点検する
		不要な荷物を積まない	○	
		不要な車両を使用しない	○	
		タイヤの空気圧の確認	○	
		適切なメンテナンスの実施	○	
	電力使用量削減	エアコンの温度設定 (冷房28℃/暖房20℃)	○	温度計を利用するなど 効果的に実行できた 今後も継続する
		事務所外出時及び昼休みの照明オフ	○	
未使用のパソコンの電源オフ		○		
用水使用量削減 (排水量削減)	手洗い及び水使用時に出しっぱなしにしない	○	実行できた 今後も継続する	
	蛇口に節水札をつける	○		
廃棄物削減	一般廃棄物	コピー用紙の裏側を再使用する	○	コピー用紙の再利用など 積極的に実行できた 今後も継続する
		弁当トレイは各自で持ち帰る	○	
		ゴミ分別の徹底	○	
	産業廃棄物	マニフェスト発行による適正処理実施	○	
グリーン購入	グリーン購入法適合商品を優先して購入	○	実行できた 今後も継続する	
	コピー用紙は再生紙を購入する	○		
	事務用品は詰替えできる商品を購入	○		
環境負荷の少ない工事実績	作業時の騒音及び粉塵対策	○	防音シートを活用する など騒音対策に留意した 今後も継続する	
	低騒音、排出ガス対策型重機の使用	○		
	リサイクル材、県産品、間伐材などの使用	○		
	工事開始前の環境パトロール及び点検協議	○		
社会貢献活動	各協会ボランティア活動への参加	○	実行できた 今後も継続する	
	会社敷地内への花いっぱい活動	○		
	会社周辺歩道の清掃	○		

— 取組の状況 —



一 次年度の環境活動計画 一

期間:平成31年4月～令和2年3月

※次年度については基本的に本年度の内容を継続して実施し、※印の活動を新たに行う。

項 目		活 動 内 容	担 当 者	期 限
CO2排出量削減	燃料使用量削減	急発進、急ブレーキをしない	全社員	令和2年3月
		不要な荷物を積まない		
		※適切な配車計画の実施		
		タイヤの空気圧の確認		
		適切なメンテナンスの実施		
		※ハイブリッドカーの導入		
		※エコドライブ10の励行		
	電力使用量削減	エアコンの温度設定 (冷房28℃/暖房20℃)	全社員	令和2年3月
		事務所外出時及び昼休みの照明オフ		
		未使用のパソコンの電源オフ		
※ウォームビス、クールビス対策。扇風機の併用				
用水使用量削減 (排水量削減)	手洗い及び水使用時にしっばなしにしない	全社員	令和2年3月	
	※まとめ洗いの工夫をする	事務局		
	※漏水点検を行う			
廃棄物削減	一般廃棄物	コピー用紙の裏側を再使用する	全社員	令和2年3月
		弁当トレイは各自で持ち帰る	全社員	
		ゴミ分別の徹底	全社員	
	産業廃棄物	マニフェスト発行による適正処理実施	全社員	令和2年3月
グリーン購入	グリーン購入法適合商品を優先して購入	全社員	令和2年3月	
	コピー用紙は再生紙を購入する			
	事務用品は詰替えてできる商品を購入			
環境負荷の少ない工事実績	作業時の騒音及び粉塵対策	全社員	令和2年3月	
	低騒音、排出ガス対策型重機の使用			
	リサイクル材、県産品、間伐材などの使用			
	工事開始前の環境パトロール及び点検協議			
社会貢献活動	各協会ボランティア活動への参加	全社員	令和2年3月	
	会社敷地内への花いっぱい活動			
	会社周辺歩道の清掃			

一 環境関連法規 一

①環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果

法規名	適用条項	具体的内容	点検頻度 測定時期	担当者	遵守状況	確認日
廃棄の処理及び 清掃に関する法律	第3条	○事業者の責務 事業活動に伴って生じた廃棄物を 自らの責任において適正に処理	必要時	環境管理責任者及 び各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
	第7条の 13項	○一般廃棄物収取運搬基準に従っ た収集運搬表示、書面備付義務	必要時		遵守	平成31年3月31日
	第12条	○産業廃棄物の事業者の処理 産業廃棄物の委託契約	必要時	環境事務局	遵守	平成31年3月31日
	第12条三	○産業廃棄物管理票(マニフェ スト)の交付	廃棄物排 出時	環境事務局	遵守	平成31年3月31日
	第12条三 7項	○マニフェスト交付状況報告書の 作成及び都道府県知事(高知県知 事)への提出	年1回 毎年6月末	環境事務局	遵守	平成31年3月31日
	規則第7条 の三	○保管場所の表示 見易い箇所に掲示板を設置 (縦60cm以上×横60cm以上)	必要時	環境管理責任者	遵守	平成31年3月31日
建設工事に係る 資材の三資源化 に等に関する法律 (建設リサイクル 法)	第5条	建設資材廃棄物の発生抑制、分別 及び建設資材廃棄物の再資源化 等費用の低減努力 建設資材廃棄物の再資源化により 得られた建設資材を使用する努力	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
資源の有効な利 用の促進に関す る法律 (リサイクル法)	第4条	○土砂、コンクリート塊、アスファ ルト・コンクリート塊、木材等の減量化 及びリサイクル	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
騒音規制法	第14条	特定建設業の実施の届出 (建設作業開始7日前までに市町村 長に届出)	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
振動規制法	第14条	特定建設業の実施の届出 (建設作業開始7日前までに市町村 長に届出)	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
水質汚濁防止法	第14条 二の二	事故等により油を含む水が公共用 水域に排出又は地下等に浸透した 場合の対応 (事故の状況及び講じた措置の概 要を県知事に報告)	必要時	環境管理責任者	遵守	平成31年3月31日
浄化槽法	第10条 第11条	○年4回の浄化槽の保守点検、清 掃実施 ○年1回の水質検査実施	年1回	環境管理責任者	遵守	平成31年3月31日
高知県環境基本 条例	第6条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物 の適正処理	必要時	環境管理責任者	遵守	平成31年3月31日
高知市環境基本 条例	第5条	○事業者の責務 公害防止、自然環境保全、廃棄物 の適正処理	必要時	環境管理責任者	遵守	平成31年3月31日
電気工事業法		○電気工事の適正な実施	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日
建設業法		○建設工事の適正な実施	必要時	各工事担当者	遵守	平成31年3月31日

一 全体評価と見直し 一

◎環境管理責任者の報告及び改善提案

■定期見直し
□臨時見直し

作成者:代表取締役 藤中昭宏
作成日:平成31年4月25日

【取組状況の評価結果】

①環境関連法規制などの遵守状況

平成31年3月31日に定期評価を実施した結果、遵守されております。

②問題点の是正処置及び予防処置の状況

平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、是正処置予防処置となるものはありませんでした。

③前回までの代表者の指示事項への対応

前年に引き続き、実績データを蓄積しながら適切な目標を計画します。

<改善提案>

特になし

◎目標・環境活動計画の達成状況

目標項目	目標値 達成状況	活動計画 達成状況	コメント (目標値、活動計画に対するコメント)
ガソリン使用量の削減	△	○	活動計画は達成できたが、昨年度に比べて工事受注量が多く、移動用燃料費が増加した
軽油使用量の削減	×	○	活動計画は達成できたが、昨年度に比べて工事受注量が多く、移動用燃料費が増加した
灯油使用量の削減	-	-	使用なし
電力使用量の削減	○	○	温度設定など節電対策が遵守されており、目標達成できた
CO ₂ 排出量の削減	×	○	活動計画は達成できたが、昨年度に比べて工事受注量が多く、移動用燃料費が増加した
用水使用量の削減	△	○	工事受注量に比例して用水使用量が増加し、活動計画は達成したが目標値は達成できなかった
一般産業廃棄物排出量の削減	○	○	適切に達成できた
産業廃棄物排出量の削減	×	○	工事受注量に比例して産業廃棄物排出量が増加し、活動計画は達成したが目標値は達成できなかった
環境負荷の少ない工事の増加	○	○	適切に達成できた
グリーン購入	○	○	適切に達成できた
社会貢献活動への参加	○	○	適切に達成できた

<改善事項>

工事受注量により数値の変動はあるが。達成に向けて活動計画を展開・浸透させていく

ー 全体評価と見直し ー

◎周囲の変化の状況

①外部コミュニケーション記録より
平成30年4月1日～平成31年3月31日の間、
外部からの苦情はありませんでした。

②環境関連法規制等の動向他
改定はありません。

<改善提案>
特になし

◎その他問題点は正

特になし

◎代表者による見直し

【環境方針】 変更の必要性：なし

環境方針は社員に浸透かつ、日頃の業務活動での
意識も見られるので、変更の必要性はない。

【環境目標・環境活動計画】 変更の必要性：あり

環境教育及び環境方針の浸透により、各工事での意識
レベルも向上が見られる。引き続き環境教育を実施し、
結果を環境活動計画にフィードバックする。

環境目標を達成できなかった項目もあり、対応策及び
適応策の活動を見直し、次年度の環境活動計画に繋げ
ていけるよう、今後も引き続き環境活動に努める。

【環境経営システム】 変更の必要性：なし

有効に機能しており変更の必要はない。
常にPDCAサイクルを意識して取り組む。



◎総括

エコアクション21への取組も2年目に入り、社員の環境意識が高まってきていることを感じられる。

今回は達成できない項目もあったが、今後も引き続き積極的に環境活動に取組み環境目標達成を目指す。



—安全で豊かに暮らせる社会のために—

有限会社
藤中電設



認証番号0012347